



ウエイトリフティング
スナッチ81kg 級
クリーン&ジャーク81kg 級

下原 玄大 選手
(旧入来商業高校出身)



延 期とか中止については前々から思っていたが、正直残念としか言いようがない。年齢的にも今大会が最後と考えていた。来年の三重国体については今のところは考えていない。

今まで応援してくれた人たちや指導者に心から感謝している。みんなの声援で頑張ろうという気になれたし、自分だけの力では出せなかった結果を指導者が導いてくれた。

思い入れの強い大会は、スナッチ77kg級で2位に入賞した愛媛国体。前大会(右手)で結果を出せていなかったのので、この入賞で自信につながり、さらに競技を続ける原動力となった。

これまでの経験が、日ごろの仕事や生活などにも生かしていけると考えている。



ホッケー成年女子

中畝地 里沙 選手
(日樋脇高校出身)

県外で活動していた時期もあったが、かごしま国体の開催に照準を合わせ地元に戻ってきた。今大会が最後という思いで、全力を注ぐつもりであった。3年後の延期案も出ているが、今は想像できない。ただ、このままでは終われない。気持ちを切り替え、来年の九州大会そして、国体で今までの借りを返したい。勝利へのモチベーションを上げていく。



ウエイトリフティング
スナッチ96kg 級
クリーン&ジャーク96kg 級

下原 卓朗 選手
(川薩清修館高校出身)

延期が決まった時には、練習にも気が乗らない時期があったが、今は気持ちを切り替えて次期大会を目標に、練習を続けている。兄(玄大)とは、ずっと一緒にやってきて、引っ張ってもらっていた。ライバルでもあり、仲間でもあった。その兄がいなくなる不安もあるが、自分がやるべきことは変わらない。今は兄の分まで頑張るしかないという思いだ。



ホッケー少年男子

上原 翔 選手
(川薩清修館高校3年)

今までインターハイなどに出場してきたが、国体は特別の舞台。地元、薩摩川内でのみんなの期待に応えなかったが残念である。ただ、次の国体も視野には入っており、さらに挑戦し続けたい。今まで共に頑張ってきたチームメイトにも感謝している。



バスケットボール
少年男子

東後藤 優志郎 選手
(川内高校2年)

茨城国体でも代表メンバーとして出場したが、今大会に対する思いは特別なものがあつた。前大会で仲間たちと果たせなかった悔しさを、全力でぶつけていく思いでいっぱいだった。リベンジする舞台が無くなり、言葉が出ない。



バスケットボール
少年女子

森 月羽 選手
(れいめい高校2年)

鹿児島での国体開催は、一生に一度の舞台であると考えていた。応援に行くと言っていた母や祖母に試合を見せられないのは非常に残念。今後は、開催が検討されているウインターカップなどへ向けて練習に励んでいきたい。



かごしま国体通信 特別編

地元開催に
皆の応援に
かける思い
を背中を押されて

10月に開催が予定されていた「燃ゆる感動かごしま国体」は、新型コロナウイルスの影響により来年以降への延期が決定しました。(8/21現在)

国体の延期は史上初めてのことで、準備に関わってきた大会関係者や、出場を予定する選手への影響は大きいものがあります。本市で開催予定であった正式5競技(ホッケー、バスケットボール、ウエイトリフティング、軟式野球、空手道)とバウンドテニスのデモンストレーション競技について、地元での開催を楽しみにしていた市民も多く、早期での開催時期の決定が待たれます。

今号では、各選手や関係者、大会準備に関わってきた方々の大会延期を受けての思い、これからの挑戦や地元への感謝など、それぞれの今について話を伺いました。

*各選手コメント内容は、取材時のもの